

パンデミック対応型オンライン授業における初年次教育の実践

—情報共有の徹底による信頼関係の構築を目指して—

井上直子[†]

1 はじめに

筆者が城西大学経済学部における4年間の教育経験の中で最も困難を感じたのが初年次教育だ。自ら経験してきた大学ゼミの「常識」や著名な研究者が著した「大学論」がそこではほとんど通用しなかったからである。大学進学率が50年前のほぼ2倍に相当する6割に迫る現在、入学してくる学生の現実に即した新たな「常識」や「大学論」の構築は全国的にも喫緊の課題なのであるⁱ。教育現場での実践やフィードバックに落胆し、消化不良や計画倒れが続く中、学生に対して「～ができない」「～がない」という否定的な評価を続けることで無意識のうちに自己効力感を蝕まれる新任教員も多いのではないかと。

筆者にとって転換点になったのは3年目で、学内外で活躍する積極的な学生を育てている同僚諸氏の助言がきっかけとなった。まずゼミ活動の中心に据えていた新書や文庫の輪読やSPIの能力検査(言語・非言語)対策を止め、空いた時間でコミュニケーション、ディベート、個人研究を重視するカリキュラムへと移行した。メンバー特性の影響も排除はできないが、学生の反応は劇的に変化した。緊張感を維持しながらも、学生の笑顔や笑い声が絶えない空間で、力まずに学生にメッセージを伝えることができるようになったのである。

一連の経験から学んだのは、日本のIQ偏重教育に順応してきた教員がその特異性や限界に気付

き、学生の多様な能力を図る様々な物差しを持つことで全ての学生の能力に気付くことの重要性である。このような直感的な理解は、理論的に裏付けられることが分かった。例えばOECDのPISA調査も、獲得した知識・技能を「活用する能力」に重点を置くようになっているし、ガードナーの「多重知能」、ゴールマンの「EQ」概念など理論的にも精緻化が進んでいるのであるⁱⁱ。日本においても教育によって獲得すべき能力として、従来型の「認知能力」に加え「非認知能力」の涵養を目的に、「生きる力(文部科学省1996年)」、「人間力(内閣府2003年)」、「社会人基礎力(経済産業省2006年)」、「学士力(文部科学省2008年)」などの新しい概念が構築されてきたⁱⁱⁱ。

2 授業設計

こうした能力の多様性を重視し、現実に即したゼミの目標設定、評価軸の設定を再度模索し始めた頃、ちょうど経済学部は、学生の非認知能力の中でも特に「意欲」を高めることをゴールに、ゼミを横断する初年次教育の準備に着手した。そこで解決を目指すことになったのは、大学内でも特に経済学部生の傾向とも言える、主体性、自己肯定感、社会性の弱さ/低さという問題で、それは「国際的・地域的な多様性を理解して、課題の発見と解決に努める人間を育成する」という学部理念を実現するためにも必要不可欠であった^{iv}。学生の

「意欲」を高め、自発的な行動を引き出すためには、Deci & Ryan(1985)によれば、自律性、有能性、関係性が鍵となる^v。これを①学生が自ら考え決定し②課題や発表へのポジティブなフィードバックを継続的に受け取り③徹底した情報共有やチームメンバーとの協働を通じ教員や仲間と信頼関係を構築することと読み替え、「意欲を高める」授業設計の条件とした。[→3つの条件]

こうした制度設計の上に、生涯にわたる学びや円滑なコミュニケーションを助け、非認知・認知能力双方のバランスの取れた伸長を促すために、ゼミ生独自の到達目標として、①「心理的安全」②「メタ認知」③「クリティカルシンキング」の3概念の理解を掲げた^{vi}。[→3つの目標]

以上の考え方を基盤に、各回の授業内容を決めた表1について、意図や具体的な内容、成果など、特に説明を要する項目については後述する通りである。

まず授業内容を決めるに当たって一番考えたのは、コロナ禍で行動を制限され、慣れないオンライン授業に向き合う大学1年生のストレスである。やる気を引き出す前に、まずは不安を取り除き、安心できる環境を準備することを4、5月の間は特に徹底した。例えば、ゼミ開始前の準備期間中に、ゼミの説明（目的、方法、評価基準、内容など）にとどまらず、不安の共有や質問のための空間を Teams 上に設けた。さらにオンラインでゼミ生18名全員と確実につながるべく、通信環境の確認、LMSのインストール、Outlookの使用方法などを WebClass, Teams, Outlook, 電話で共有した。[目標①]

信頼関係を築く上で重視したのは徹底した情報共有と、質問への素早い返信である。LMS(Teams, Forms)の特にチャット機能と課題機能、YouTubeをフルに活用することで、90分の授業時間を超えて学生に寄り添い、サポートする関係作りを目指した。具体的には、授業時間内では簡略化せざる

を得ないテーマについても別途 YouTube ビデオを作成し、Teams から誘導してオンデマンド試聴してもらい、Teams 上で Forms を使って作成した期限付き課題に取り組みながらビデオの内容を咀嚼し深く考えてもらった上で、教員から一人一人に丁寧にフィードバックするという流れをルーチン化した。[条件①～③]

3 ディベート

前期授業で、学生が楽しみ、盛り上がった試みとして、第11・12回目に実施したディベートが挙げられる。工夫のポイントは、事前にしっかりルールを共有した上で、チームごとにディベートに勝ち抜くための準備をしてもらった点である^{vii}。今回は3名1チームとし、名簿に基づいてランダムにチーム(1～6)を編成した。チーム(A～F)の対戦表とテーマは前もって教員が準備し、チーム(1～6)の代表がブラインドでくじ引きをしてA～Fを決定。この日授業後にチームごとの Teams 会議を開き、リーダーを選出。チームによっては、その後2、3回ミーティングを重ねて準備を行なった。全てのリーダーはテーマごとに賛成反対双方の意見を取りまとめ、ミーティング後、教員にメール連絡した。

7月15日には初回のディベートを実施した。「後期もオンライン授業でいくことに賛成か反対か」「努力と才能、どちらが人生にとってより重要か」「見た目と心のどちらが重要か」の3試合を15分ずつ行なった。1分答えに詰まったら失格としたが、全員制限時間までディベートを続けることができた。勝敗は前もって伝えていた5つの評価軸

1)相手の意見をちゃんと聞いて受け止めていたか

2)礼儀を弁えていたか(攻撃的な発言はなかったか)

- 3)話す内容は理屈が通っていたか
- 4)エビデンスに基づいた話ができていたか
- 5)あなたにとって学びがあったか

について、それぞれ 1～3 で採点してもらい、Teams の会議内のチャット機能を使って、試合終了時に投票を行なった。結果 3 チームが次回の決勝戦進出を決めた。この日の提出課題は「ディベートの振り返り」とし、ディベートで勝利するためのコツや気づきについて、授業録画を試聴して回答してもらった^{viii}。準備がものをいうこと、相手の意見をしっかり聞いて理解した上での発言が説得力と共感を得やすいことなどを、学生自身が発見することができたのが最大の成果であろう。

[条件①]

7月22日のテーマ選択は「お金か時間か」「安楽死に賛成か反対か」「幸せとは何か？定義を決めて対決」と、やや抽象度を上げ、社会問題を織り交ぜて難易度を上げた。結果的に2チームがタイで優勝し、直後に Teams で彼らの功績や他チームのファインプレーを称え、ディベートの最中の発言に関連するデータなどを補足して掲示したところ、即座に「いいね！」3つの反応があった。

この日の提出課題は「クリティカルシンキング」と題し、教員がクリティカルシンキングについて説明する YouTube ビデオを視聴してもらった上で、理解を深める設問に回答してもらった。ディベートに「勝つ」ために能動的に情報を調べ考えた経験や、それに先立って実施した出身地の社会経済的問題についてのプレゼンテーションの経験を生かし、後期の個人研究につなげるのが目的である。読解力が低く自信のない学生に対して、学術的な知識を詰め込むことを不完全に繰り返すトラウマを負わせるより、学生自身が選んだテーマについて「自発的に調べ、考え、発表する」ことを通じて知的好奇心や自己効力感を高め、学びへのポジティブな感覚を養うことを目標としたのである^{ix}。[条件①]

学部の初年次教育についての教員間の議論の中で、「教員から学生への一方的な知識の伝達が授業である」とか、そもそも「知識が少ない学生同士では実のある議論ができない」といった発言を耳にしたが、コロナ禍での一連のオンライン授業の経験からこうした考えには与せず、今後の授業設計においても前期授業の条件や目標の効果を継続的に測定していく必要性を感じている。

4 結び

こうして多くの教員にとっても初めてのオンライン授業は、前期の間継続して実施された。しかし教員や学生がオンライン授業に慣れた頃から、対面授業の再開を求める声が増しに強く報道されるようになった。対面授業とオンライン授業では、前者の方が学生と教員の距離が近く、学生の満足度も高いに違いないという考えがそうさせたのである。しかし個人的な印象はむしろ逆で、対面授業に伴う移動や雑務を削減して生まれた時間は、学生との対話や授業設計によって埋められた実感が残る。ゼミ中に聞こえた学生の意見も、オンラインの利点を強調するものが（大学では未経験のはずの）対面を凌いでおり、コロナ後の大学において何らかの形でオンライン授業が継続活用されることを十分に予想させる結果となった。

最後に6月初旬に行った大学全体のアンケート調査から得られた1,2年生のフィードバックを紹介する(表2)。これはアンケートの設問6「オンライン講義を受講して、満足した講義科目」への回答としてゼミを選択し、その理由を自由記述したものである。フレッシュマンのみならずソフォモアからの回答を示すのは、学年を超えて、教員が心がけた授業設計の条件や目標の成果を測るためである^x。少ない回答から結論を導くのは早計だが、特に条件②、③、目標①について、いくばくかの手応えを感じることができた。

表 1 2020 年度前期井上フレッシュマンゼミの授業内容と課題

回数	実施日	授業内容	課題
事前準備		ゼミの全員と WebClass, Outlook, Teams で連絡可能な状態にした(一部電話連絡で指導)	Teams にて疑問や不安の書き込みスペースを作り、成績の付け方・臨時奨学金・教科書の買い方・電子図書館・PPT の作成方法を案内して、オンライン講義接続アンケートへの回答を促す
1	5月13日	teams にてリアルタイム授業 井上自己紹介、大変な状況を共有(奨学金、PC 貸与)、ゼミとは何か(「必修」の意味)、ネット・リテラシー 連絡手段の説明(WebClass、Outlook、Teams、Zoom→接続確認) 入学前課題提出の指示 カメラとマイク ON の練習:ショートプレゼンテーション(名前と出身地、何を頑張ってきたか、オンライン環境や授業についての不安や質問) アンケート(5分) 就活への不安やレポート作成についての案内や説明を Teams 上にアップロード	課題1自己紹介から始めよう Forms(5/4)
2	5月20日	Teams にてリアルタイム授業 出席をとりがてら、接続確認、オンライン受講環境確認、オンライン環境や授業についての不安や質問 PC 貸与・緊急コロナ奨学金について案内(5/18 に説明 YouTube ビデオを Teams にアップロード) これから4年間の大学生活について、就活・卒論を軸に説明	課題2 Eメールの書き方 Outlook を使って、2通送る メールの書き方サイトを参考に、失礼のないように、 1. 城西大学経済学部の佐々木たま子教授に宛てて、7/14 の授業を部活の試合を理由に欠席する文面でメールを書いてください。 2. 株式会社 XX 興業の人事部人事課、採用担当の佐々木丸男に、9/12、午前 10:00 からの就職説明会への参加希望を伝えるメールを書いてください。
3	5月27日	事前に大学生活に不安がある学生のために、「大学生活の流れ」「やりがちな失敗」「1年生でやっておくと良いこと」を網羅的に説明する YouTube ビデオを Teams にアップロード 5/23 Teams から zoom へ移行を完遂する予定だったが、一部学生の音声の問題で Teams 残留を決定 以後毎回 Teams にてリアルタイム授業 出席をとりがてら、接続確認、オンライン受講環境確認、オンライン環境や授業についての不安や質問を受け付ける Word で文書を作る→OneDrive に保存の演習 緊急事態宣言の解除に伴う入構や私設利用制限緩和・市井のコロナ関係学生支援制度について情報共有 プレゼンテーションとは何かをスライドで説明(YouTube ビデオと次回から行う「自己紹介」のプレゼンテーション説明(順番の揭示) キーワードの設定、出身市町村の地理や歴史、社会経済的特徴を軸に、重要な関心事に焦点を絞って、自分なりの考えを示して発表する 必ず統計などのデータを引用すること 引用元の記載についても案内 学期末までに決める自由研究について簡単に説明	課題3 高校生のプレゼンテーションを視聴して、問題点や良いところ、気づいたこと、何が良いプレゼンテーションの条件なのかを考える Teams にプレゼン準備のマニュアルをアップロード(アイスブレイク、目線、抑揚、緩急など)
4	6月3日	プレゼン#1 課題はフィードバック(発表者の名前、題名、内容の概略、内容について面白い点、内容について改善できる点、発表の仕方ではよかったところ、発表の仕方では改善できる点) 2年生3名の上手なプレゼンのビデオを共有	課題4 プレゼンのフィードバック
5	6月10日	プレゼン#2	課題5 プレゼンのフィードバック
6	6月17日	プレゼン#3 個人研究のテーマ設定のコツ・Opac や Cinii, ILL など図書館サービスの使い方を説明	課題6 プレゼンのフィードバック
7	6月24日	プレゼン#4 6/24 キャリアサポートセンター・就職ガイダンスの説明	課題7 プレゼンのフィードバック

8	7月1日	プレゼン#5 無料の図書情報・面白い就活サイトなどを案内	課題8 プレゼンのフィードバック 課題9 個人研究のテーマ
9	7月8日	前もって Teams に個人研究プレゼンテーションの条件についてアップロード(社会的意義、問いと答え、エビデンス、出典の明記など) プレゼンで一番評価が高かった5名を表彰 個人研究のテーマを決める(夏休みに資料を渉猟、後期プレゼン・レポート) セキュリティテスト 20問	課題10 心理的安全性を考える YouTubeビデオを視聴してもらい、心理的安全性がなぜ重要か、それを確保するために私たちが気をつけるべきことは何かを学ぶ
10	7月15日	キャンパスアワー・次回からのディベートルールの説明(くじ引きで対戦相手、テーマを決定)、チームメンバー・準備方法(参考資料など)・評価軸の揭示 チームごとにオンライン・ミーティング:賛成、反対の理由を一人3つくらいあげ、リーダーは結果を報告	課題11 メタ認知について YouTube ビデオを視聴してもらい、大学生活のみならず就活や社会生活のあらゆる場面で重要であることを理解し、どうすればそれを鍛えられるか考える
11	7月22日	ディベート大会#1(対戦直後に全員から評価) 「努力か才能か」 「見た目か心か」 「後期もオンライン授業に賛成か反対か」	課題12 ディベートのフィードバック
12	7月29日	ディベート大会#2 「お金か時間か」 「安楽死に賛成か反対か」 「幸せとは何か?」	課題13 クリティカルシンキング についての YouTube ビデオを視聴してもらい、どんな場面で必要になるか、それができるとどういう利点があるか、どうやったらできるようになるかを考える
13	8月5日	ディベートの表彰、全体のレベルの高さを褒める 前期のパフォーマンス(課題提出 100%など)を褒める 1人5分個人研究のテーマを発表(理由や目的・方法など) 夏休みの個人研究のやり方 30分(プレゼンとレポートにつなげる)	夏休みの課題

夏休みの課題

- 後期初回と2回目を使って「夏休みの経験と学び(五分)」に関するショートスピーチをします。
- 3回目以降、コメントを受けてテーマを修正して頂いた個人研究(新しいテーマにする場合は要相談)を ppt でプレゼンします。

注意点)

- 10~15分
- 最初に社会的意義(「自分が好きだから」以上の何か)
- 研究の目的、「問い」と「答え」を明確に
- 表紙や目次、まとめ、資料などを除く全てのスライドは「問い」に対する「答え」を導くためのエビデンス(論証)
- スライドの中に記載する文言や図表を「人の論文や本」から引用した場合「出典」を明記する(しない場合は「自分の責任」)
- 最後に必ず資料を明記(本、論文、新聞、ネット、など)。書式は以下の通り統一。

本: 佐藤丸男『近代イタリアの国家観』新潮社、2020年、56頁。

論文: 田中佳子「絹とは何か-レーヨンの普及と化学繊維の開発から」『繊維研究』35巻2号(2020年11月)、45頁。

ネット: 平成25年度 文部科学省委託調査 平成25年度「生涯学習に関する調査研究」「男女共同参画を推進する教育・学習」の実態把握と質の向上に関する調査研究報告書

URL https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/chousa/_jcsFiles/afildfile/2014/08/20/1350088_01.pdf(最終確認 2020年8月5日)

新聞: 「スターバックスでアルコール販売も 定款を変更」朝日新聞朝刊 2003年6月25日第2面

- ⑦ネットのまとめサイトや Wikipedia に頼らないこと(資料収集には時間がかかります。1、2週間では間に合いません。)
- ⑧夏休み中に資料収集をどんどんやってみよう!
- ⑨独りよがりにならない。悩んだらまずは相談。

後期の授業形態その他についての連絡→夏休み中も Teams や WebClass、Outlook、JUnavi など1日1回チェックしましょう。

表 2 城西大学「オンライン講義に関する学生アンケート(6/1～6/10)」設問 6 に対するゼミ生(1,2 年生)の回答

学年	理由
1	一つ一つ丁寧に教えてくれた
1	授業内外で情報のやり取りなどがとてもしっかりしてくださっていてやりやすかったから。
1	授業内授業外共に情報のやり取りや質問などがしやすかったから。
2	プレゼンカが身に付くから
2	一人一人サポートしてくれる

注

- i 文部科学省報道発表(2019 年)「令和元年度学校基本調査(速報値)」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2019/08/08/1419592_1.pdf (2020 年 9 月 28 日取得)
- ii 日本生涯学習総合研究所(2018 年)『「非認知能力」の概念に関する考察』
<http://www.shogai-soken.or.jp/htmltop/toppage.files/non-cog2018.pdf> (2020 年 9 月 28 日取得)、ハワード・ガードナー(2001 年)『MI:個性を生かす多重知能の理論』(新曜社)、ダニエル・ゴールマン(1998)『EQ こころの知能指数』(講談社+α 文庫)参照。
- iii 日本生涯学習総合研究所、前掲論文。
- iv 城西大学 HP
<https://www.josai.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00046526.pdf&n=2021年度教育研究上の目的経済学部.pdf> (2020 年 9 月 28 日取得)
- v Deci & Ryan(1985), “Intrinsic Motivation and Self-Determination in Human Behavior”, Springer US.
- vi ピョートル・フェリクス・グジバチ(2018 年)『世界最高のチーム グーグル流「最少の人数」で「最大の成果」を生み出す方法』朝日新聞出版、三宮真智子(2008 年)『メタ認知:学習力を

支える高次認知機能』北大路書房、E. B. ゼックミスタ他(1996 年)『クリティカルシンキング 入門篇:あなたの思考をガイドする 40 の原則』北大路書房を参照。

vii ちなみに説明した授業の後に、ディベートの目的やルールについて Teams のチャットで 4 点ほど質問を受け、すぐに回答や補足の説明を Teams にアップした。

viii 録画ビデオは授業直後に Teams にアップロード。

ix 東日本大震災をきっかけに、「対話」を通じて子どもが考える力を自然と育む授業 p4c(philosophy for children)を導入した気仙沼市小泉小学校の試みを紹介する ETV 特集「7 人の小さき探求者～変わりゆく世界の真ん中で～」(2020 年 4 月 18 日放送)に着想を得た。自己決定と幸福の関係については、西村和雄他(2018)『幸福感と自己決定-日本における実証研究』(独立行政法人経済産業研究所) <https://www.rieti.go.jp/jp/publications/summary/18090006.html> (2020 年 9 月 28 日取得)

x 設問 7「オンライン講義を受講して、改善してほしい講義科目」としての指摘は特に受けていない。